

学校点描^{プラス}

初雪が降ったので、自転車は禁止となりました。避難訓練では、ミサイルが落ちたときの行動について考えました。

《K中学校》

NO.13

R4. 11. 20

担当：校長

吹奏楽部2年のK・Hさんが、第31回全日本中学生・高校生管打楽器ソロコンテストT大会予選に、木琴演奏を録音し予選審査にエントリーしました。ちょうど合唱祭前ということで、夕方遅くまで、または朝早くから練習に練習を重ねて録音したものです。その結果、先日、見事予選通過のメールが届きました。次は12月25日（日）にS市M城野区文化セーターで全国大会に向けて、生演奏のコンテストとなります。

11月26（日）よりM上広域市町村圏教育センターで数学チャレンジクラブがはじまりました。地区内の中学校1・2年生から希望者を募り、Y大学の先生の指導の下、難易度の高い問題に試行錯誤で取り組む数学クラブです。地区内から14名参加しています。本校からは、1年のA・Yさんが、配られたチラシをみて進んで参加しています。授業では扱わない難問を他の中学生と一緒に協働して取り組みました。センター長の先生から、難問を解いて驚いたことの報告がありました。自ら進んで自分の能力を発揮しようとする生徒が出てきたのがとてもうれしいです。数学クラブは12月3日、24日とあと2回開催されます。

地区読書感想画コンクールで、1年のH・Cさんが優良賞に、1年のN・Nさんが入賞に輝きました。

雪の降る中、バスは学校入り口と反対側に止まります。バスを降りた中学生は、車が途切れるのを待っての横断です。横断歩道も信号機もない所でも、車が止まってくれることがあります。ありがたいものです。

マウントを取る人

第一章

今年の流行語大賞は、プロ野球ヤクルトチームの4番村上選手のことをあらわした『村神さま』だそうです。しかし、わたし個人としては、よく若者が使っていた『マウントを取る』という言葉が、今年一年もっとも気になりました。“マウントを取る”とは、相手よりも優位に立ちたいがためにとる言動だそうです。自分の考えや意見が一番正しいと思っているため、自分の意見を人に押し付けたいという心理から“マウントを取る”のだそうです。なんだか、この社会は、どんどん自分中心主義で心の内に閉じこもるような、そして、他人を簡単に否定することで優位性を保とうとするような、そんな方向に向かっているような気がしてなりません。

第二章

Aさんが体験した、ある駐車場管理人さんの話を知りました。Aさんは、自分の事務所の近くに駐車場を借りていたそうです。

その駐車場には、初老の雇われ管理人がいました。定年退職後、その駐車場の管理人として働き始めたそうです。Aさんが駐車場を利用するたびに、その管理人の老人はいつも笑顔で「おはようございます。今日もいい天気ですね」と声をかけてくれるのだそうです。

ある日のこと、Aさんは、移動の途中で雨が降り出し、駐車場に車を入れた後、車から出られず困っていました。すると、そこへ管理人のおじいさんがやってきて、「傘忘れたんでしょ。これ持って行って」と貸してくれました。



満車のとき、「満車」と書いた大きな看板を入りに置いておくのが普通の駐車場ですが、その管理人さんは、「満車」になると、入りに立って、入ろうとするドライバー一人ひとりに「申し訳ありません。満車です。」

と頭をさげていました。そんなとき、必ずと言っていいほど

「どうせ雇われ管理人だろ！なんとかしろ！」

と暴言を吐きながらクレームを言うお客がいます。自分はお金を払う側だ、お前より上なんだとマウントするわけです。それでも、管理人さんは、頭を下げ続けます。マウントを取った運転手は「ちえっ」と言って、立ち去りました。管理人のおじいさんは、その車が見えなくなるまで頭を下げ、見送っていたそうです。Aさんは、それを見ながら「そこまでしなくてもいいのに・・・」と思ったそうです。

ある日、車を止めてあいさつをすると、管理人のおじいさんは

「今週いっぱい辞めます。いろいろお世話になりました」といいました。奥さんが病気になったらしいのです。残念に思いながら、最後の日、Aさんは、感謝の気持ちを込めて、手土産を持っていきました。

第三章

朝、信号機も横断歩道もない道路をバスから降りた生徒達が横断します。生徒達が渡り終えるまで、自動車は止まって待ってくれます。生徒たちは、横断し終えると、止まってくれた自動車に向かってお辞儀をします。別に指導したわけでもありません。ほとんどの生徒はお辞儀をします。法律上、道路は歩行者第一ではあるけれど、中学生の止まってくれた車への感謝のお辞儀を見るたびに、中学生なりの謙虚さを感じます。マウントの反対側にあるのは、謙虚さだと思いました。



最終章

Aさんが着いたとき、小さなプレハブの管理人室の周りには、たくさんの若者であふれていました。管理人室の中も外も、たくさんの手土産や花束でいっぱいだったそうです。一人ひとりが、雇われ管理人のおじいさんに感謝のお礼をいったり、握手したりしていたのです。

Aさんは、「人を上から見ていた自分の目を覚まさせてくれた人なんだよなあ」と言いました。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。

Shinyatk1616n@yahoo.co.jp